

OMC事務局 〒560-0085 豊中市上新田4-16-1-33 合原 一夫 TEL06-6833-9227  
 広報編集局 〒573-1171 枚方市三栗1-18-20 前田 茂夫 TEL072-850-5781  
<http://www.ne.jp/asahi/smaeda/12/>

平成15年12月(2003年) No.456

## ビデオコンテスト受賞の速報

金子、西村両氏が韓国の国際コンで、  
 合原氏がビデオサロンの全国コンで受賞

### ■第14回大韓民国国際ビデオ大展

- ・入選 「森の宮 鶴社」 金子博康さん
- ・入選 「信仰に生きる」 西村光雄さん
- ・入選 「大木先生と子供達」 西村光雄さん

### ■玄光社ビデオサロン「全日本映像コンクール」

- ・入選 「有明海苔に生きる」 合原一夫さん 以上  
 お目出度うございました。

## 作品はいゝ状態で上映したい

11月例会で上映した作品は、プロジェクターの調子が悪く、せっかくの作品の色が悪く、出品者には大変申し訳ない結果となりました。どうやら前に使用した人が調整をいじっていたらしく、例会前に藤原さんに調整し直して頂いたが時間切れで充分直している時間がありませんでした。早速学習センターの機材の責任者に苦情を言い、調整しておくよう言っておきましたが、今後も起こりうる課題です。根本的には自前でプロジェクターを持つのが良いのですが、保管の問題もあり頭の痛いところです。なお、会場の賃貸テレビは21インチで小さ過ぎて見えそうにありません。

(合原)

### ■下記の方が新しく入会されました。よろしくお願いします。

中西 良隆さん

〒573-0091 枚方市菊丘町7-14 TEL 072-841-3747

## 12月例会は第3土曜20日

12月例会は、恒例により第3土曜日20日18時より、いつもの大阪駅前第2ビル5階大阪市立総合学習センターにて開催します。来期の会費8,000円の納入もお願いします。今年最後の例会を皆で楽しく過ごしましょう。作品もお忘れなくどうぞ。



## 11月例会レポート

今月は30名からの会員さんの集まりと18本に及ぶ作品が寄せられ、司会の安居さんは大忙し。しかし遂に2本が次回回しとなるという、うれしい悲鳴が上がった。

今月の司会は安居氏、書記は関氏、デッキ係は増池、江村の両氏、受付兼照明係は渡辺、宮崎両氏の担当で会を進行させた。

■出席：有村、今井、江村、岡本、奥、紙本、上総、金子、河合、小竹、合原、関、進藤、那須、西村、中尾、華岡、藤原、松本、宮崎、前田、増池、森下、森田、森口、森、安居、吉岡、山本、渡辺、その他新入会者1名、計31氏。

■上映作品（今月の講評担当は関氏です。）

### 1. 光と影のページェント（ワイド）

前田茂夫さん 6分21秒

今年の鉄道記念日に梅小路蒸気機関車館でおこなわれたイベント。夜、暗やみのなかにライトアップされ、鈍い輝きを放つ動態保存のSLが4両。やがてスモークが焚かれ辺りに立ちこめる。逆光にたたずむ真っ黒な機関車がなぜか美しい。BGMとともにやや感情を込めた女声アナウンスで、車種、生い立ちと活動歴、延べ走行キロなどが紹介されていく情景はSLファンにとって身震いするような演出効果だ。この夜は停止したままだが、ライティングの中では昼とまた違った顔を見せ、カメラの目はその美しく輝くメカニズムに向いていた。

こんな催しのあることを一般の人は知らない。やはりこれまで足繁く通い続けてきた熱心なSLファンの特権だろう。作者の梅小路通いはこれからも続くに違いない。

### 2. 京都三尾の秋（ワイド）

進藤信男さん 7分54秒

京都三尾とは洛北の槇尾、梶尾、高雄を指す。槇尾には西明寺、梶尾には高山寺、高雄には神護寺という名刹があり、ともにもみじの名所だが、時期が早かったのかそれとも天候不順のせいかわからない。みごとと言える紅葉でなかったのが残念。テレビの中継などでは真っ赤に燃えるもみじの前でレポートするのをときどき見るが、場所を限って中継していることが多い。つまり紅く染ま

った数本の木をアップ主体で撮り、さも全山紅葉にみせかけているのだ。その点作者はロングを多用していた。映像はアングルと編集で決まる。たとえば悪いが「人を騙す」テクニックもときには必要だ。

### 3. 永源寺 増池 茂さん 8分50秒

こちらテーマは秋だが前者と違い、みごとな紅葉。作者のクセだった構成の矛盾もほとんど無かった。日曜日でやたら人が出てくるが、紀行物でまとめるならそれは仕方のないことだろう。ただひとつ司会者も指摘したが、人形が木魚を打つワンカットは実に唐突。それがお寺の中か土産物屋に置いてあったものかも全く判らない。

### 4. 堺のカーニバル

森 保信さん 8分10秒

いつもの判で押したようなタイトルが今回は違っていた。屋外ステージの白い看板を巧みに使ってエフェクトしたタイトルは素晴らしいアイデアだ。インターナショナルピープルカーニバルとあって各国の舞踊が披露されるが、撮影の協力者を得てその映像が上手に活かされていた。演目の変り目はさまざまなワープで処理。そしてラストもステージの背景を左右のスライドで閉じるワープのあとに「THE END」と出した。聞けばローランドのV-5を使ったとのことだが、あまりの変り様にまるで別人のようだった。

### 5. 川中島合戦 吉岡貞夫さん 14分

頭に「上杉まつりパート3」が付く。前回までに「武諦式」と「上杉軍団行進」を拝見したが、いよいよクライマックス。説明のアナウンスとともに、黒沢映画顔負けのエキストラ群が河川敷を覆い尽くし、やがて彼我入り乱れての戦いが繰り広げられていく。堤防上から望遠の撮影は、謙信や信玄は馬に跨がっているのを目につくが、あとは合戦を演じる範囲が広いので何処で誰がどうなっているのかよく判らない。しかし謙信が単身で敵陣に切り込み、馬上から振り下ろした剣を信玄が咄嗟に鍋蓋で防いだ伝説のシーンは、遠目ながら確認できた。

（チャリーンの効果音は鍋蓋ではない？）  
普通、時代がかった「まつり」と言えば行列だが、これは野外を広いステージに見立



て、二日間かけて完結する「演劇」ではなかったか。町おこしとはいえ企画する側もたいへんだが、それを真正面から取り組んだ作者の姿勢に頭のさがる思いがした。

#### 6. 岸和田だんじり祭

奥 宏さん 5分30秒

朝、静かな街のたたずまいは、これから始まる緊迫のひとつきを予言しているかのよう。商店街の入口で各町のだんじりが、それぞれ趣向を懲らした華やかな出発のセレモニーは、少し距離はあるが人々の興奮状態が手に取るように判る。疾走するだんじり。そして辻まわしの中では喝采を送る沿道の観衆、2階の窓から見物する人たちを実にタイミング良く追っていた。迫力あるアップこそ少ないが、昨今の人込みではそれを要求するのは無理だろう。夜、提灯のゆらめきを極限まで絞込んだ撮影は、昼間とは対照的な情緒ある瞬間をみごとに捉えていた。短い作品だが今まで隠れていた作者の実力を見た気がする。

#### 7. 名水は今 森口吉正さん 8分30秒

越前大野はかつての武将、金森長近の城下町として築かれたところ。古くから九頭竜川の地下水がこの町のいたるところに湧きだし、全国の名水百選のひとつに選ばれていたが、ダム建設や工場の大量汲み上げで年々水位が低下し無残な枯れ井戸の現象が各所で起きているようだ。ここでは御清水（おしょうず）と称し、今も僅かに湧き出る井戸に、わざわざ三重県から汲みにきたと言う人もいた。良い水のあるところに銘酒が生まれ、みずみずしい野菜も育つ。芋を手にした朝市のおばさんも水の恩恵に感謝してしているようだった。しかし住民たちの社交場として常に笑い声が絶えないはずの洗い場に一滴の水もない。

作者のこれまでのシリーズは名水を讃えるものだったが今回は違う。朽ち果てた井戸、地を這うザリガニ、澱んだ池などを冷めた目で見つめていた。近代化の波に人間が為すべきことを忘れ、その陰でひそかに壊わされていく自然に対し作者は警鐘を鳴らしているのだ。

#### 8. 山鹿色模様 紙本 勝さん 分50秒

毎年8月 15・16 日に熊本県山鹿で行な

われる灯籠まつり。まず作者は町はずれにある装飾古墳群を訪ねた。色あざやかな幾何学模様は千数百年経ったいまも褪せていない。豊前街道沿いにある八千代座は歌舞伎役者や著名俳優たちの登龍門。回り舞台、升席、花道なども古くからの様式をそのまま伝え、特に天井を彩る広告が目惹く。明治時代から庶民の夢を叶えてきた芝居小屋は白壁の商家が続く街並に溶け込んでいた。次いでカメラは灯籠製作の工房にはいる。“骨なし”と謳われた山鹿灯籠は和紙以外はいっさい使わずすべて手作り。穴明け、切り込み、糊付けと、緻密な手作業でみごとな灯籠が組みあがっていく。やがて夜のとぼりが降り、はるかに「よへば節」が聞こえてくると街は踊り一色に塗り潰される。灯りを点し、きらきら金色に輝く灯籠を頭につけ、列をなしてしなやかに踊る光景はまさに桃源郷だ。女性だけのこんな優雅な踊りがほかにあるだろうか。16日の夜は故事に因んで景行天皇を迎える松明行列、そして千人踊り。暗やみの中に浮きあがった灯籠が幾重にも輪になり、幽玄の世界を創りだしていた。

題名の「色模様」とは赤、黒、金、そして闇と灯りなのだろう。作者のこだわりが何となく判ったような気がする。

#### 9. 南京玉すだれ

渡辺雄史さん 9分50秒

御堂筋パレードに参加した玉すだれのグループを追っている。ざっと見たところ百人あまり。中には前日はるばる群馬や大分からやってきたと言う人もいるから、にわかには編成されたのだろう。出発前のミーティングは、どの掛け声で何を演じるのか、その意思統一は欠かせない。これをまとめるリーダーもたいへんだ。ところが行進が始まると全員にこやかな笑顔を沿道に振り撒き、リーダーの声で一糸乱れぬ演技を見せたのには驚いた。日頃からボランティアなどで披露している経験が身に染みついているのかも知れない。

作者は道路の真ん中から、あるいは先導車の上から鳴物のメンバーなども撮っていた。おそらく腕章を付けていたのだろう。

腕章をもらって御堂筋パレードを撮った



アマチュアを何人か知っているが、ひとつのグループに限定して撮った人は一人もない。これは構成も良かったし、作者の狙いは成功だった。

**10. 飛瀑秋麗 関 剛(筆者) 5分**

知人の撮った映像を私が編集録音したもの。壁塗りパンニングと往復ズームで見せられる側は船酔い症状だったのが、半年ほどのアドバイスでこれくらいの撮影が出来るようになった。と言う見本。

**11. 万博公園花ごよみ**

**那須典彦さん 8分56秒**

何年かで撮り貯めた素材を季節順に並べた作品。もともと音楽に入っていたのか、それともSEを使ったか、鳥の声は少々入れ過ぎだと思う。ご本人は「こんなもんその場所へ行ったら誰でも撮れるがな」と、よくおっしゃるが、まさにそのとおり。

“この人の映像はいつもアップが多く絵も綺麗だなあ”と言う感想しか今は頭に浮かばない。まことに申しわけないが。

**12. 氷河 上総修一郎さん 11分48秒**

クルーズ旅行でカナダの大氷河に立ち寄ったときのスペクトル。制作の目的は氷河先端の崩落にある。そこに至るまでの映像や説明もいろいろあったが、正直なところあまり印象に残っていない。つまり序盤と後半の落差が大きすぎた。それだけ崩落の場面がすごかったからだ。作者ご自身もそれは承知のはず。だから3回もおなじ映像を繰り返し見せていた。

ナレーションだが、現場の状況に文献やご自身の直感も加えて、親切で特徴のある原稿作りにいつも感心するが、実は聞いていて肩が凝るような思いがある。読み違えを意識するのか、語り口が少し堅い。立て板に水とはいかないまでも、吹き込む前の練習はしてほしいと願う。

**13. 秋蘭(た)けて**

**河合源七郎さん 7分26秒**

人とか家屋はおろか、川や滝も出てこない、山野だけでこれだけ観せるとはたいしたもの。名は知らないが、長く伸びた天使の羽のような逆光の穂が美しい。馴染みのススキまでがこんな姿を見られるのかと驚いた。要は観察の目と撮り方だ。いい勉強

をさせていただいた。

**14. 喫茶コーナー 今井羨美さん 14分**

作者がお住まいの東淀川区大道南町老人憩いの家で月2回、地域住民のボランティアによる喫茶コーナーがひらかれているそう。7月の1回目は七夕に近いこともあって、その飾り付けの準備で近所の主婦たちが集まっていた。作者はたぶんその記録を買って出たのだろう、仕上がった飾り物や手作業の女性たちの様子を丹念に撮っていた。メニュー看板が「トローリ、あまーい、あんみつです」とはまた楽しい。老人会でこの作品を見せたときはさぞ喜ばれたことだろう。趣味のビデオとはこれが本来の形ではないかと、ふと考えさせられた。

**15. 怒江のリス族**

**山本正夢さん 7分20秒**

ミャンマーに近い中国雲南省の険しい山岳地帯に住む少数民族。激流に懸けられた長い吊り橋は隙間だらけ。現地の人は平然と渡っていたが私たちならたぶん足がすくむだろう。そこから大きなゴミを投げ捨てる者がいたのはびっくり。別の場所ではワイヤーロープの滑車に体を縛り、対岸に滑り降りと言うサーカスもどきの装置。なんと作者がカメラで撮りながらそれに挑戦したから二度目のびっくり。

観光地図に載っていないアジアの各地を見せてくれる作者の作品をいつも楽しみにしているが、現地の歌が始終流れていて煩わしいときもある。現場音も必要、それに無音というのもひとつの効果音だ。以後は音についてもう少し考えていただきたい。

**16. ホコ天 森田光春さん 6分48秒**

11月23日新橋一なんば間の御堂筋が歩行者天国になり、その珍らしさもあってか、かなりの人で賑わっていた。ストリートミュージシャン、女性だけの楽団、大道芸人などを間の開いたカットバックのモンタージュで結構おもしろい効果をあげている。女性シンガーをクロマキーで合成したところは背景の観衆との向きが背中合わせだった。細かな構成まで考えない。逆説的に見ると、そこらの大ざっぱさがこの人の作品の魅力になっているのだろう。